

第6期音威子府村総合計画

おといねっふ物語

北海道で最も小さい村 音威子府村

音威子府村も他のまちと同じように人口が減ってきています

小さい村でも“できることってなんだろう？”

“10年後もこんな暮らしがしたい！”

村民みんなで未来について考えました

そうだ！

小さな村だからこそ

「一人ひとりが活躍」 「一人二役」

私たちはありたい未来に向かって歩み始めました

ここから

『おとねっぶ物語』がはじまります

A watercolor illustration of a forest path. The path is a light brown color, winding through a dense forest of green trees and foliage. The style is soft and painterly, with various shades of green and brown. The path leads from the bottom center towards the top left of the frame.

目次

2032年おといねっぶ物語..... 4

音威子府村が目指す将来像を、子どもから大人まですべての村民が共有しやすいように「おといねっぶ物語」にまとめています。

村民みんなで考えた2032年の理想の村の姿を示しています。

総合計画..... 15

2032年おといねっぶ物語に掲げる将来像を実現するため、3つの基本目標を整理しています。

3つの基本目標に沿って、今後10年間で取り組むべき施策の柱と主要な施策の内容について示しています。

2032年 音威子府村

大自然に囲まれたこの小さな村は
ちょっと不便なこともあるけれど
小さな村ならではの
素敵で豊かな暮らしがあります。

2032年おといねっぷ物語

令和14（2032）年の音威子府村には、こんな人たちが暮らしています。

Aさん（28歳） 関連する基本目標①②③

フィールドガイドの匠

アウトドアが好きだったので、本業とは別に夏は釣りや森を案内するガイド、冬は除雪の合間に子どもたちにクロスカントリースキーなど、ウィンタースポーツを教えています。

天塩川や森林は大切にされ、豊かな自然が保たれています。環境問題に対しても身近なところから取り組みを進めていて、エネルギーの地産地消などにも取り組んでいます。

子どもたちは自然体験活動など村独自の教育や保育で心豊かに育っています。

関連する施策のイメージ

- 森林や河川の維持・整備
- 森林資源・天然林等の多面的活用
- 着地型体験観光商品の造成
- 村の資源を活かした教育を推進 など

Bさん（37歳） 関連する基本目標②③

憩いの場の匠

5年前に移住して、地産地消を売りにしたカフェを運営しています。最近焼き出したパンが村の人に好評です。カフェでは近所の一人暮らしの高齢者の方に食事を提供しています。

村の農林畜産物を活用した特産品を村民で協力して作っており、全国で愛されています。

そのほか、地域の人と協力して、ウェブサイトやSNSなどで村の魅力を発信しており、交流の輪が広がっています。

関連する施策のイメージ

- 第一次産業のブランド化、6次産業化支援
- 産学官金の連携により副業・兼業
- 空き家や体験住宅等を活用した移住の促進
- SNS等を活用した村づくり情報の広報 など

Cさん（45歳） 関連する基本目標②③

地域コミュニティの匠

みんなで空き家をリノベーションして、みんなが集える場所をつくりました。平日は地域の子もたちが気軽に遊びに来て、土日は高校生など若い子たちも立ち寄っています。年齢や立場に関係なく、自分の好きなことが活かせるコミュニティができています。

この場所で仲良くなった人たちと休みの日にみんなでキャンプをしたりスポーツに親しんだりしています。

関連する施策のイメージ

- 村民同士による多世代交流の促進の場づくり
- スポーツを楽しめる環境・機会の整備・交流促進 など

Dさん（27歳） 関連する基本目標①②③

二地域居住の匠

東京と音威子府村の二地域居住です。仕事はリモートワークなので不便なことはありません。村に居ないときも、オンラインで村の人とつながっています。

村では、村民ガイドさんに教えてもらいながら、釣りと森の探索を楽しんでいます。地域には、環境にやさしい交通手段が整っており、不便は感じません。夏休みには、村の子どもたちにプログラミングを教えています。

4ヶ月しか暮らしていないけど、村の一員だと思っています。

関連する施策のイメージ

- 新たな働き方の導入支援
- リモートワーク、ワーケーション、創作活動等の環境整備
- 関係人口創出を通じた地域内外の交流促進 など

Eさん（67歳） 関連する基本目標①③

環境美化の匠

ガーデニングが趣味です。自宅の庭のほかに仲間と一緒に道路沿いに花を植えています。最近、ガーデニングをきっかけに村に立ち寄ってくれる増えています。見に来てくれた人たちを近所のカフェに案内して、交流を深めるのが楽しいです。村の魅力が知れ渡り、音威子府村のファンが増えています。

関連する施策のイメージ

- 森林保全や交流振興に向けた景観形成
- 関係人口創出を通じた地域内外の交流促進 など

村の将来像

森とともに 一人ひとりの匠が活躍する村

音威子府村には
雄大な自然とゆったりと流れる時間のなか
いつでもあたたかい心でつながっている人たちがいます。

匠とは、特別な技術や知識が必要なわけではありません。

私たちが考える「匠が活躍する村」とは
あらゆる立場の人が
自分がわくわくすること。
こうしたい、こうなりたいという気持ちで
自分が生き活きる場所をいくつかもち
すこしの勇気と好奇心で「新しい未来」に踏み出す姿です。

この将来像は
時代の変化とともに変わりゆく社会経済情勢の中でも
先人から受け継いだ決して変わることはない私たちの想いである
「森とともに生きる村づくり」にちなんで描きました。

音威子府村で暮らす一人ひとりが
一人二役で自分の好きなこと、活躍できる場で
生き活きと暮らし、幸せを感じるとき
この村はより一層かけがえのない村になります。



未来の姿について みんなで考えました

「2032年の音威子府村がこうなっているといいな」を
考えるために、アンケート、ワークショップを通じて、
子どもから大人まで「未来の音威子府村の姿」について
お聞きしました。

「豊かな自然を大切に」
「心あたやかな村民」
「一人二役」
「一人ひとりが活躍する」などなど。

そこには、音威子府村の村民として大切にしたい生き方
がありました。

私たちは、未来に向かってありたい姿を描き、実現に向
けて歩み始めました。

村民、高校生達から未来に向けた声を集めました

- 村民アンケート調査
【実施期間】令和4（2022）年7月～8月
【対象者】本村在住の18歳以上の住民基本台帳に登録している村民
- 高校生アンケート調査
【実施期間】令和4（2022）年7月
【対象者】北海道おといねっぶ美術工芸高等学校に通う生徒

安心して活
き活きと過
ごせる村

村民同士
の交流の場
が増える

動画などを
制作し
もっと村を
PR

村民、高校生達とわくわくする未来を考えました



テレワークや移
住などを実現で
きる環境づくり

村外に出ても
戻ってきたいと
思える村づくり

一人が何役
かを担う村
づくり

村民みんな
が集える場
づくり

- 村民ワークショップ
【開催日時・参加者数】
1回目：令和4（2022）年8月27日（土） 村民15名
2回目：令和4（2022）年9月19日（月） 村民13名
3回目：令和5（2023）年1月28日（土） 村民5名
4回目：令和5（2023）年3月予定
【テーマ】
1回目：音威子府村の魅力と課題、10年後の理想の村の姿
2回目：理想の村にするために何が必要か自分たちができることを考える
3回目：村民が集まる場と仕組みのあり方を考える
4回目：（実施後記載）

小・中学生からも村づくりのアイデアがたくさん出されました



村民みんな
の仲が
いい

アートが
溢れてる

他では見ること
ができない
風景・自然が
たくさん！

- 小学生ワークショップ
【開催日】2022（令和4）年8月25日（木）
【参加者数】小学生12名
【テーマ】村の魅力、PRしたいところを考えよう



自然を活
かした村
づくりを

廃校など活用
した体験づく
りを

SNSを活用
して村の知
名度を上げ
る

- 中学生ワークショップ
【開催日】2022（令和4）年8月25日（木）
【参加者数】中学生12名
【テーマ】10年後の音威子府村の理想の姿について考えよう

おといねっふの素敵どころ

北海道で最も小さい村には、豊かな自然、芸術文化、心あたたかい村民が支え合うコミュニティが息づいています。

私たちの村は、国内だけでなく世界の人々を惹きつける魅力にあふれていることをワークショップやアンケートを通じて再認識しました。

豊かな自然

広大な森林や天塩川など、自然が豊かで空気がとてもおいしいことは村のアイデンティティです。そして、一歩家の外に出れば、さまざまな動植物と出会うことができます。

満点の星空

夜になるとあたりは静けさに包まれます。静寂の中、夜空を見上げると、満点の星空と天の川が目の前に。

夜の村内はどこでも、星空を楽しむ特等席になります。

きれいな夕陽

日暮れとともに刻々と表情を変える夕景は、天塩川にも映りこみます。水面に揺れる夕陽と風に揺れる木々の音…村民はこんな贅沢な時間を毎日味わっています。

心も体も温泉でぽかぽかに

天塩川のほとりに位置する天塩川温泉。日帰り入浴は村民に人気で、家族連れからお一人でも気軽に足を運んでいます。宿泊もできるため、北海道・道北で温泉ホテルを探すなら村民一押しの天塩川温泉を。

村を彩る花々

音威子府村には、花見の季節が2度あります。1度目は桜、2度目はそばの白い花畑。足元に小さく揺れる草花が日々の暮らしに彩りを与えてくれることを村民は知っています。

村を見守る神社

村内には音威子府八幡神社をはじめ、常盤神社、止若内神社など古くから村を見守っている神社があります。さらにこれらの神社は、子どもたちの絶好の遊び場にもなっています。

最北の大河 天塩川

悠々とした流れ、緑豊かな森と水の音。北海道第2位の長大河川の天塩川は、村民も誇る音威子府村の地域資源です。音威子府大橋からの眺めは絶景で、村の子どもから大人までお勧めしています。北海道遺産^{*1}にも選定されていて、カヌーツーリングに絶好の川として全国的にも知られています。

心あたたかな村民

音威子府村の村民はあたたかく、すれ違う時は自然と挨拶をします。村外から来た人たちも優しく迎え入れてくれます。困った時も、それ以外も、お互いが気にかけて、大家族のようです。

あちこちにいる彫刻たち

フクロウ、トーテムポール、音威子府村100年記念塔…。村民にはおなじみの彫刻たちです。彫刻家・砂澤ビッキが残した作品も多く、村内の子どもたちも、一体いくつあるのか数えるそう。エコミュージアムおさしまセンター（アトリエ3モア）は、ビッキの作品のほか、村民やおと高生の作品も展示されています。

森にとけこむキャンプ場

自然に囲まれた環境は、キャンプにもってこい。天塩川温泉キャンプ場は、村民も利用するキャンプ場です。芝生は抜群に綺麗で国道からも近く、申し分ない環境が自慢です。

小さな村のターミナル駅

音威子府駅は北のターミナル駅として、鉄道ファンには有名な駅です。JR宗谷本線の特急列車停車駅で、都市間バスのターミナルにもなっています。村民にとっては、村内と村外を行き来するために欠かせない駅。駅舎内には、おと高卒業生制作のベンチや、おと高生や地域有志が作った休憩場所があり、列車やバスを待つ村民の憩いの場所の一つです。

胸躍るクロスカントリーの季節

音威子府村の冬といえば、クロスカントリースキー。日本のトップランナーも参加する「全日本クロスカントリー音威子府大会」は、村民も思わず熱くなる冬の風物詩です。

寄らずにはいられない道の駅

道の駅おといねっふは、木工芸品やおとつきグッズ、そばなどが購入できます。お土産の販売だけでなく、道の駅内ではこだわりのラーメンを味わうこともできます。音威子府村を訪れた人達には、ぜひ寄ってほしい場所です。

「おと高」は村の宝

北海道おといねっふ美術工芸高等学校、通称「おと高」。そこに通っている生徒は村民から“おと高生”と呼ばれています。おと高は北海道唯一の全日制工芸科高等学校（美術コース・工芸コース）です。道内全域そして道外からもやってくる“おと高生”達。村民はおと高、そして生徒のことも村の宝と感じています。



北海道遺産^{*1}：次の世代へ引き継ぎたい有形・無形の財産の中から、北海道民全体の宝物として選ばれたもの。令和5年1月時点の北海道遺産は総計74件。（北海道遺産ホームページより）

みんなの力をあわせてやってみよう

村民ワークショップや中学生ワークショップで「10年後の理想の姿を叶えるために必要なこと」や「自分たちができること」について話し合ったところ、色々なアイデアが出されました。

アイデア1：みんなが集まる「おとバル」

- 村民同士が交流できる場を求める声がたくさんありました。
- ワークショップでは、村内の空き家を改修したり公共施設などを活用し、村民だれもが集まることができる場「おとバル」をつくっていききたいという意見もありました。そこでは、女性たちがパンづくり教室を開いたり、おと高生が油絵や木工芸の作品づくりについて講師となり、村民に教えてくれます。
- さまざまな情報交換の場として、コミュニティを支える場になるでしょう。

アイデア2：一人二役でだれもが活きる仕組み

- 村民が生き生きと暮らし続けるために、一人ひとりが自分の好きなこと、得意なことを活かして活躍できる場が必要という声がありました。
- 本業とは別に、趣味を活かしてフィールドガイドとして観光客を案内したり、地元の農産物を活用したカフェを運営したり…。
- 一人二役を進めていくと、それぞれの個性が尊重され、だれもが活躍できるのではないのでしょうか。さらに多様なコミュニティが形成され、村民活動や地域のつながりがさらに強くなるでしょう。

アイデア3：森と農の恵みから生まれる特産品開発と販売

- 音威子府村は農業が基幹産業で、そばやフルーツトマト、かぼちゃ、ホワイトアスパラガスなどが作付けされ、乳用牛も飼育されています。
- 自然を大切に作る本村で、四季折々の新鮮な農畜産物などを活かした特産品を開発し、「音威子府ブランド」を確立したいという声がありました。
- 特産品は、村内のカフェや道の駅で販売し観光に訪れた人が手に取ったり、ECサイトで販売し、村のPRにつなげていききたいという意見もありました。

アイデア4：交流事業のコーディネート・販売

- 音威子府村の自然や歴史文化などの地域資源を磨き上げ、ツアーを造成したいという声がありました。
- 村民がガイドとなり観光客を案内することで、村民だからこそ知っている奥深い魅力を伝えることができるのではないかと、という意見も出されました。
- ガイドを行う村民は本村の魅力を再発見し、地域の良さを再認識する機会になるかもしれません。

アイデア5：交流人口・関係人口を増やす「おといねっぷファンクラブ」

- おと高生は、高校卒業後に村外に進学や就職する人が多いです。一方で、村外にいても村や高校と関わりたい、応援したいといった意見がありました。
- 就職や就学のために一度音威子府村から出て行ってしまった人でも長く本村と関わることができる取組を進めていききたいという意見も出されていました。
- 「おといねっぷファンクラブ」のように村外にいても村づくりに関われる取組を進めていけば、村にゆかりのなかった人も本村のファンになってくれるかもしれません。

アイデア6：自然と共生するライフスタイル

- 音威子府村の自然環境をこの先も守り続けるために、環境に配慮した取組やライフスタイルを送ってほしいという声がありました。
- 観光ツアーでは、木立が並ぶ緑道を走るサイクリングなど環境に配慮したエコツアーや宿泊体験が人気になるかもしれません。
- 情報通信技術などの先端技術も暮らしに取り入れることで、テレワークや二地域居住など、都市部からたくさんの方が訪れる村にしていきたいという意見もありました。

アイデア7：村の情報発信・村の広報

- 音威子府村の豊かな地域資源を活かして、もっと村の魅力を伝えていきたいという意見がありました。
- そこで、大人から子どもまで、村民みんなが本村の魅力をSNSなどを活用し発信するといいいのではないかと、という声がありました。
- SNSを活用したPRにより、本村の情報をタイムリーに発信し、本村を知ってくれる人が増えていくことに期待が持てます。

ここに記載された内容は、村民ワークショップなどで出された「村民の想い」をアイデアとしてまとめたものです。ご覧になっている村民のみなさん、気になるアイデアがあったら音威子府村役場に教えてください！どうやったらできるか「力をあわせて」一緒に考えましょう！

総合計画

総合計画とは

1. 総合計画策定の趣旨

音威子府村では、平成25（2013）年度に「第5期音威子府村総合計画」（計画期間：平成25（2013）～令和4（2022）年度）を策定しました。村づくりの実践目標を「森と水と人が織りなす匠の里・おといねっぶ」と定め、村民と行政が連携して取り組んできました。

また、令和2（2020）年度に「第2期音威子府村まち・ひと・しごと創生総合戦略」（計画期間：令和2（2020）～令和6（2024）年度）を策定し、人口減少に伴う地域課題に対応する取組を進めてきました。しかしながら、本村の人口減少と少子高齢化は一層進行しており、税収の減少や社会保障関係費の増大などにより、今後の厳しい財政運営が見込まれています。さらに、刻々と変わり続けていく社会経済情勢や財政状況には先行きが不透明な面もあります。

このような状況にあっても、持続可能で自立した村をつくるため、令和5（2023）年度から令和14（2032）年度までの10年間の計画期間とする「第6期音威子府村総合計画」を策定します。

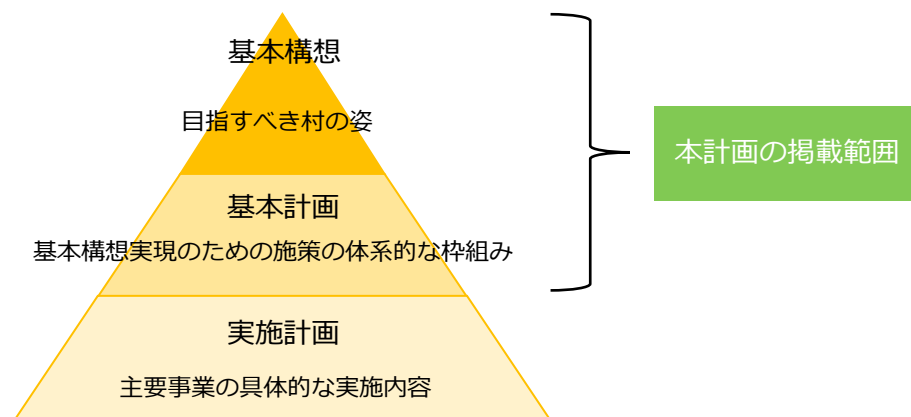
2. 計画の位置付け

本計画は、本村政における最上位計画として位置付けるものです。
本計画との整合性を図りながら、分野別の基本計画を策定・改定します。

3. 計画の構成と期間

(1) 計画の構成

総合計画は、「基本構想」「基本計画」によって構成され、この計画に基づき、毎年予算の確保と合わせた「実施計画」により事業が実施されます。



■基本構想

基本構想は、村政の長期的な展望に立ちながら、「将来像」とその実現のための村政の柱となる「村づくりの基本目標」を掲げ、体系的に示します。

■基本計画

基本構想で掲げた「将来像」、「村づくりの基本目標」を実現するために取り組む施策を「施策の柱」及び「主な施策」として整理し、示します。

■実施計画

「基本計画」に示した主な施策内容を明らかにし、本村における毎年度の予算編成・組織機構・人事計画などの運営方針となるものです。

「基本計画」に掲げられた主な施策の実効性を担保するため、財政計画との整合性を図りながら、具体的な事業内容・財源・実施時期などを示します。

計画期間は3年間とし、毎年度の事業の評価・検証を行いながら見直しをするPDCAサイクルにより事業の進行管理を行うこととします。

(2) 計画の期間

基本構想及び基本計画の計画期間は、令和5（2023）年度から令和14（2032）年度の10年間とします。

基本計画においては、社会経済情勢や財政状況の変化に合わせて必要に応じて見直しを図ります。

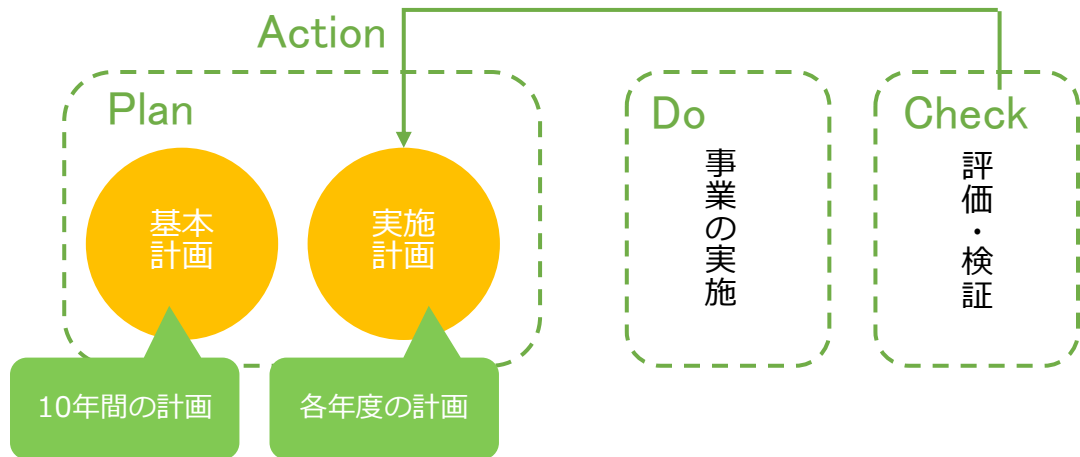
実施計画の期間は3ヶ年とし、ローリング方式により毎年度見直しを行います。

年度	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)	令和10年度 (2028年度)	令和11年度 (2029年度)	令和12年度 (2030年度)	令和13年度 (2031年度)	令和14年度 (2032年度)
基本構想	10ヶ年									
基本計画	10ヶ年 ※必要に応じて見直し（おおむね5ヶ年程度ごと）									
実施計画	3ヶ年			3ヶ年			3ヶ年			毎年度改定（ローリング）

4. 総合計画の推進体制

計画の実効性・即応性を高めるため、計画（企画）・実施・評価・改善のPDCA^{※2}サイクルを通じた評価検証を毎年度実施します。

庁内で各基本施策の評価・検証を行い、より効率的・効果的な施策を展開していきます。



PDCAサイクル^{※2}：Plan（計画）・Do（実施）・Check（評価）・Action（改善）の4つの視点をプロセスの中に取り込むことで継続的な改善を推進するマネジメント手法

音威子府村の概要

令和5（2023）年の音威子府村は以下の通りです。

北海道北部に位置

音威子府村は東西22.2km、南北18.6km、総面積275.64平方kmを有し、上川管内の音威子府村勢要覧北部に位置します。（出典：）

北海道命名の地

松浦武四郎は、天塩川の河川敷で長老アエトモにアイヌ語を教わり、「北海道」という名を生み出したと言われています。（出典：音威子府村史）

森に囲まれた寒冷地域

村の中央を天塩川が貫流し、河川沿いに平坦地が形成されています。海洋性気候に属す盆地的地形で寒暖の差が激しいため、年間平均気温が6度程度と低く、北海道でも寒冷地に属します。道内でも有数の豪雪地帯で降雪量は12mを超えることもあり、冬季の除排雪対策の強化などが求められます。（出典：音威子府村勢要覧）

総面積の約8割が森林

森林面積は23,672haであり、そのうち国有林が5ha、私有林が734ha、公有林が15,087ha、独立行政法人等が7,846haです。北海道大学中川研究林の管理する森林は7,679haと広大な面積を有しており、今後も大切な自然環境として森林の保全活動が必要です。（出典：2020年農林業センサス）

村内に4つの駅を維持

かつて鉄道の街・国鉄の街と呼ばれ、宗谷本線と旧天北線が分岐する鉄道要衝地として発展してきた歴史があります。現在は、無人駅を含む村内の4駅を「みんなの駅プロジェクト」を展開して維持存続しています。今後は交流拠点としての機能充実などが求められます。（出典：音威子府村ホームページ）

道内で1番人口が少ない約700人の村

昭和25（1950）年の4,185人をピークに人口は減少傾向にあり、令和2（2020）年の国勢調査では706人となっています。しかしながら高校生の人口割合が高いことが特徴で、高齢化率は29.9%です。この特色を活かし、村民一人ひとりが活躍する村づくりが大切です。（出典：令和2年国勢調査）

北海道唯一の工芸科がある村立高校

北海道おといねっぶ美術工芸高等学校は北海道唯一の村立全日制工芸科で人気を誇っています。全国各地から美術工芸を学ぶために生徒が移住しています。今後も同校の振興を図るとともに同校を通じた村づくりを推進することが重要です。（出典：北海道おといねっぶ美術工芸高等学校ホームページ）

基幹産業の農業産出額は1億5千万円

農業が村の基幹産業です。村内に16経営体あり、そばやフルーツトマト、かぼちゃ、ホワイトアスパラガスなどの野菜の作付や乳用牛などを飼育し、農業産出額（推計）は1億5千万円です。本村の農畜産物を付加価値化し認知度を高めるためには、一次産業のブランド化や特産品の開発などが必要です。（出典：令和2年生産農業所得統計）

第三次産業の就業人口は約7割

令和2（2020）年の産業別就業人口は、第一次産業は2割弱、第二次産業は1割、第三次産業は約7割です。第一次産業は減少傾向にありましたが、平成22（2010）年から微増し、第二次産業は減少傾向、第三次産業は増加しています。今後も産業の活性化に向けて、後継者育成や新規参入者の支援などが必要です。（出典：令和2年国勢調査）

観光客は約5万人

村を訪れる観光客はおよそ5万人で、日帰り客が約9割を占めています。7月、8月、12月の観光客が多く、夏はキャンプ、冬はクロスカントリー大会による来訪がみられます。今後は、交流人口のさらなる増加を目指し、地域資源を活用したツアーなどの造成が重要です。（出典：令和2年度北海道観光入込客数調査）

日本を取り巻く社会経済情勢

令和5（2023）年の日本や音威子府村を取り巻く社会経済情勢は以下の通りです。

（1）人口が減少し、少子高齢化が進行

日本の総人口は平成20（2008）年をピークに減少しており、令和35（2053）年の人口は1億人を下回ると見込まれています。生産年齢人口は平成7（1995）年をピークに減少し、総人口に占める年少人口の割合は世界的にみても低い水準となっています。令和18（2036）年には約3人に1人が高齢者になると推計されています。

人口減少・少子高齢化の進行は、さまざまな影響が懸念されています。

この人口減少社会で、豊かな暮らしを送るためには、人口だけでなく、“幸せを感じて生きている人”や“自らの力で暮らしを楽しくし、住みやすい地域をつくっていく人”の数を増やしていくことが大切です。そして、あらゆる世代が生き生きと生活できる村づくりを進めることが求められています。

（2）価値観やライフスタイルの多様化

近年、経済のグローバル化や新型コロナウイルス感染症などの影響により、社会経済情勢は大きく変化しました。

人々の価値観やライフスタイルが多様化するとともに、物質的な豊かさだけでなく心の豊かさを重視する方向へと変化しています。

働き方においては、終身雇用や年功序列型の賃金体系は形骸化しつつあります。どこで、どのような働き方をするのかという選択肢も広がっています。同時に、より多くの方が社会で活躍できるようになりました。

一人ひとりの考えやニーズに合わせて暮らしや働き方などを選ぶことができる時代においては、多様な価値観や個性を尊重し、それぞれの人にあった暮らしを実現することのできる村づくりが求められます。

（3）都市部から地方への人の流れの創出

日本全体の人口が減っていることに加え、都市部へ若者が流出することによって、地方の人口減少に拍車がかかっています。

政府は、地方に仕事や雇用を生み出したり、若者が結婚・妊娠・出産・育児しやすい環境をつくることで、暮らし続けたい、移住したい地域づくりにつなげようとしています。

そのためには、自分たちの村にある地域資源を活かした手法を考え、行動することが大切です。さらにその行動を続けていくためには、自分が楽しいと思えることが必要です。

“自分が得意なこと・楽しいことだから続けていくことができる”“誰かのためにやっているからやりがいを感じさらに広がっていく”、このような循環が求められています。

（4）ICT^{※3}などを取り入れた暮らしの実現

この先、超高齢化社会^{※4}が到来すると、医療や福祉にかかる費用、インフラの老朽化や高齢化による公共交通の需要が高まると予測されています。一方で、人口減少により税収が低下していることから村歳入の減少に伴い、事業の優先度の選択と集中がさらに必要となっています。

また、日本では台風や地震など自然災害が毎年のように発生しており、だれもが安心して生活できる社会づくりが求められています。

IoT^{※5}やAI^{※6}、ビッグデータ^{※7}など情報通信技術が急速に進展・普及しており、産業、医療、教育などさまざまな分野や生活のあらゆる場面において活用が期待されています。

村民に住み慣れた地域で暮らし続けてもらうためにも、デジタル化を積極的に推進し、村民生活の利便性向上と効率的な行政運営につなげていく必要があります。

ICT^{※3}：「Information and Communication Technology」の略称で、“情報通信技術”と訳される。

ネットワークを活用して情報や知識を共有することも含めた幅広い言葉。

超高齢社会^{※4}：65歳以上の人口の割合が全人口の21%を占めている社会を指す。

IoT^{※5}：「Internet of Things」の略称で“モノのインターネット”と呼ばれている。インターネットに接続されていなかったモノが、ネットワークを通じてサーバーやクラウドと接続して相互に情報交換をする仕組みのこと。

AI^{※6}：人工知能（Artificial Intelligence）の略で、コンピュータがデータを分析し、推論や判断、最適化提案、課題定義や解決、学習などを行う、人間の知的能力を模倣する技術のこと。

ビッグデータ^{※7}：人間では全体を把握することが難しい巨大なデータ群のこと。

村の将来像

森とともに 一人ひとりの匠が活躍する村

第6期音威子府村総合計画策定にあたり、本村の地域特性、取り巻く社会経済情勢、アンケートやワークショップでの検討を踏まえ、本計画における大切なキーワードを「人」としました。

急速に変化する時代の中で、経済は成長期から成熟期へ移行し、日本の人口は減少へと転じています。人口や経済の縮小を抑制しながら、地域の営みや人々の暮らしを豊かするための新たな仕組みを生み出すことが求められています。

そこで、目指すべき本村の「未来」を実現するために、将来像として「森とともに一人ひとりの匠が活躍する村」を掲げました。

本村は、これまで「森と匠」をキーワードに村づくりを進めてきており、村民にもこの想いは深く浸透しています。これまで積み重ねた本村の独自性や個性を根幹に維持しながら、小さな村であっても新しい村づくりを進めていきます。

そのためには、「人」が重要です。

村民一人ひとりが自分の好きなこと、得意なことで生き活きと暮らし、豊かな生活を送ることが大切だと考え、「一人ひとりの匠が活躍する」と表現しています。

総合計画は、村民をはじめ本村に関係するすべての人々を対象とした「村づくりの指針」となります。その前提を踏まえ、本村に関わる人々と協働してつくりあげてきました。

小さくも魅力ある村、生き活きと暮らし続けることのできる村に向けて、村民一人ひとりが一歩踏み出すことを支援します。そして村民同士が互いに支え合い、村民と行政及び各関係機関が協働して村づくりを進めていきます。

将来像の実現に向けた3つの目標

村の将来像の実現に向けて、3つの基本目標を整理しました。

●基本目標1 「森とひとが共生する」

この先も、音威子府村の豊かな自然を次世代へ受け継いでいくために、自然と人々が共生し住み続けられる村づくりを目指します。

本村ならではの森の恵みを活かした暮らしを守るために、環境負荷を軽減するライフスタイルの定着や再生可能エネルギーの導入、省エネルギーの取組の推進などを検討します。

また、村民が安心して住み続けるために、暮らしを支える生活基盤の整備や安心・安全な生活を守る取組の推進などに努めていきます。

●基本目標2 「森に学びひとが未来を創る」

音威子府村の自然とともに育まれてきた農業、林業、商工業、観光産業の振興を図ることで、本村の経済活動の活性化を目指します。

村内外の事業者や団体、人材と連携し、各産業の付加価値向上や新産業の創出、人材育成、市場開拓など多様な施策を展開します。

また、多様化するライフスタイルや価値観に合わせて、自分らしい生活と新たな働き方が実現できるような環境整備に努めていきます。

●基本目標3 「森の大切さを知るひとが育つ」

音威子府村の人と暮らし、村民の健やかで安心な生活を支える保健・医療、地域福祉などが充実した村づくりを目指します。

本村で育つ子ども達の教育環境の充実や、北海道おといねっぷ美術工芸高等学校を活かした村づくりを進めます。

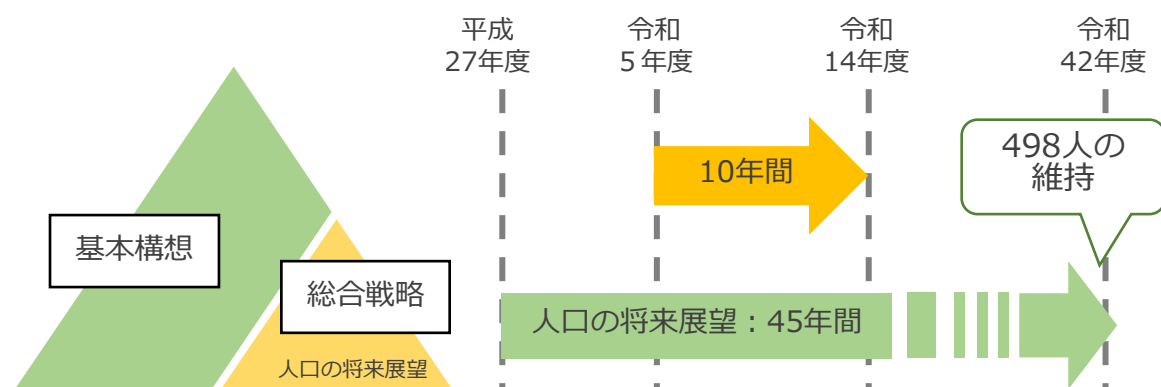
また、保健・医療・福祉サービスの充実を図ります。加えて、村民一人ひとりが助け合う健康福祉のあり方を考え、だれもが生き活きと暮らせるような施策の展開を進めます。

さらに、村づくりへの参画機会の拡充や協働で取り組む仕組みの構築を進めるとともに、より効率的で健全な行財政運営、公共施設の適切な管理に努めていきます。

2032年に 人口685人を目指す

全国的に少子高齢化や人口減少が急速に進む中、小さくても魅力ある村として在り続けるためには人口の維持が必要です。

第6期音威子府村総合計画の目標年次である令和14（2032）年の目標人口は、「音威子府村人口ビジョン^{※8}」及び「音威子府村まち・ひと・しごと創生総合戦略^{※9}」の考えに基づき、685人とします。



なぜ「令和14（2032）年に685人」？

令和5（2023）年1月現在、本村の人口は●人です。

総合戦略において、将来人口の推計を行った結果、実現可能と考えられる目標人口（令和42（2060）年：人口498人の維持）を設定しています。そして、同戦略では、令和14（2032）年度の目標人口を685人と設定しています。

同戦略で示された目標人口685人の維持に向けて、今後の施策努力をより一層推進していきます。

音威子府村人口ビジョン^{※8}：「まち・ひと・しごと創生法」に基づき、人口減少に伴う地域課題に対応するために、村の人口動向の特性と課題を把握し、目標とする将来人口と将来展望を提示している。

音威子府村まち・ひと・しごと創生総合戦略^{※9}：人口減少に伴う地域課題に対応するために国・道の総合戦略を勘案しながら、人口ビジョンにおいて設定された将来人口規模を達成するために必要な政策分野ごとの目標を示している。

将来像

森とともに一人ひとりの匠が活躍する村

目標人口
685人

基本目標

P30
~35

森とひとが共生する



基本分野：環境・防災

自然環境、再生可能エネルギー、
防災・防犯、社会インフラ

施策の柱

森に囲まれたの環境にやさしい村

- 1) 自然環境の維持・推進
- 2) 循環型社会の形成

P30-31

自然と調和した住み良い村

- 1) 自然と調和した村づくり
- 2) 暮らしを支える生活基盤の整備

P32-33

村民の命と財産を守る安全な村

- 1) 地域安全の確保

P34-35

主な施策の内容

- 森林や河川の維持・整備
- 再生可能エネルギー導入
- 4R（ごみの発生回避・減量化・再利用・再生利用）の促進 など

- 道路や河川の維持管理、安全確保
- 山林保全や交流振興に向けた景観形成
- 水道水の安定供給、下水処理、施設維持
- 快適な住環境の整備
- 音威子府バイパス開通に伴う関連施策の推進 など

- 交通安全意識の普及啓発、関係機関と連携した安全確保の推進
- 防犯活動の推進
- 救急体制の充実 など

P36
~39

森に学びひとが未来を創る



基本分野：経済

産業振興、雇用環境

村民の活力があふれる村

- 1) 農林業・商工業の振興
- 2) 地場産品の振興
- 3) 観光レクリエーションの振興

P36-37

自分らしい働き方と生き方を送れる村

- 1) 新しいライフスタイルの実現
- 2) 雇用機会の充実
- 3) 移住・定住の促進

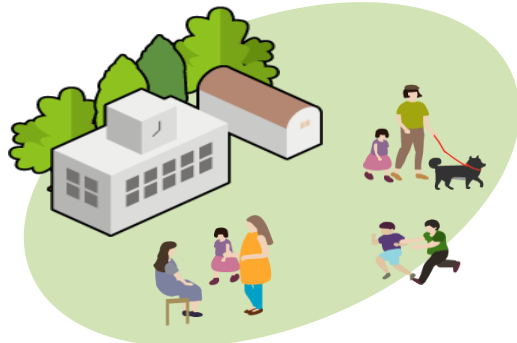
P38-39

- 森林資源・天然林等の多面的活用
- 第一次産業のブランド化、6次産業化支援
- 工芸品や農産品の商品化・販売促進
- 着地型体験観光商品の造成 など

- 新たな働き方の導入支援
- 多様なライフスタイルに合わせた移住交流の推進
- おと高卒業生や若者の雇用の場の創出
- 移住・定住に向けた居住の場の確保 など

P40
~47

森の大切さを知るひとが育つ



基本分野：人・暮らし

教育・人材育成、文化振興、
交流、子育て、福祉・医療、
協働、行財政

村への愛着と生きる力を育む村

- 1) 教育の充実
- 2) 村立高校を通じた地域振興
- 3) 交流活動の促進
- 4) スポーツ・文化振興

P40-41

互いに思いやり安心して生き生きと暮らせる村

- 1) 保健・医療サービスの整備
- 2) 子育て環境の充実
- 3) 福祉の推進
- 4) 地域福祉の推進

P42-43

ともに支え合い関わり合う村

- 1) 村民協働の仕組みづくり
- 2) 効率的な行政運営
- 3) 行政サービスの充実
- 4) 健全な財政運営
- 5) 公共施設等の総合管理
- 6) 男女共同参画社会の推進

P44-47

- 新たな技術を取り入れた教育の推進
- 高校生参加による個性的で魅力ある村づくり
- 村民同士による多世代交流の促進の場づくり
- スポーツを楽しめる環境・機会の整備、交流促進 など

- 心身の健康維持・相談支援、食育等の推進
- 切れ目のない子育て支援の推進
- 高齢の方・障がいのある方が活躍できる場づくり・機会づくり
- 地域コミュニティ活動やボランティア活動の推進 など

- 村民協働の推進
- 村民一人二役の活躍の場づくり
- 組織体制の充実・強化
- デジタル技術を活用した行政サービスや生活支援検討
- 財政運営の健全化
- 男女共同参画意識の啓発 など

基本目標 1 「森とひとが共生する」

(1) 森に囲まれた環境にやさしい村

本村の地域資源である豊かな自然環境と共生するため、森林や河川などを守り続けていくことを推進します。加えて、自然にも人にもやさしいライフスタイルの創造を図ります。

また、村内に暮らすすべての人が自分たちの使うエネルギーを意識し、再生可能エネルギーの導入などによるエネルギー転換や省エネルギーの取組を推進していきます。

1) 自然環境の維持・推進

- 森林や河川などの自然環境の維持・整備などによる保全を図ります。
- 自然環境との共生を目指すために再生可能エネルギーや省エネルギーの取組を推進し、環境にやさしい暮らしや事業活動の促進を支援します。
- 村民・事業者・行政が連携し、再生可能エネルギーへの転換や省エネルギーの取組を進めていきます。

<主な施策>

- 森林や河川の維持・整備
- 再生可能エネルギー導入
- ゼロカーボン政策の推進

■村民の意見

できる範囲で再生可能エネルギーについても導入していきたい

森林や川は大切な資源！

2) 循環型社会の形成

- できるだけごみを出さないようにし、自分で出したごみに責任を持つよう村民の意識醸成を図ります。家庭や事業者から出されるごみを減らすため、村内で再利用する取組を進めます。
- 4Rの促進や再生可能資源の活用促進、廃棄物の適正処理の推進を進め、循環型社会の形成を支援します。

<主な施策>

- 4R（ごみの発生回避・減量化・再利用・再生利用）の促進
- 廃棄物の適正処理の推進
- 再生可能資源の活用促進

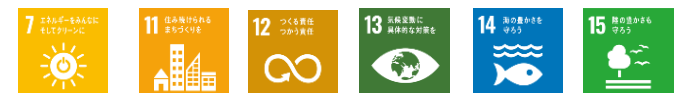
■村民の意見

自然を大切に村づくりをしていく

ごみ問題を解決していきたい

村民にエコバッグを配布！

施策の柱に関連するSDGsのゴール



基本目標 1 「森とひとが共生する」

(2) 自然と調和した住み良い村

本村は豊かな自然と調和した村であることから、村民・団体・事業者・行政が連携しながら、環境美化や景観の維持及び形成を図っていきます。

また、村民が安心して快適な暮らしを送ることができるよう、生活基盤や環境の維持と整備を推進します。

1) 自然と調和した村づくり

- ・人と自然が共生することで維持管理されてきた森林や河川、道路、豊かな景観を後世に残していくための取り組みを進めます。

<主な施策>

- ・道路や河川の維持管理、安全確保
- ・山林保全や交流振興に向けた景観形成
- ・廃屋撤去等による環境美化の推進

■村民の意見

農地と一体となった景観が村の魅力！

五感が研ぎ澄まされるところがいい

移住してきた人が安心でき、感動できる村にしたい

2) 暮らしを支える生活基盤の整備

- ・道路、上下水道、廃棄物対策など、日々の暮らしに必要な生活基盤を整備し、暮らしの快適性を実現してきました。今後も村民が住み続けたいくなるように、適切に社会資本の維持管理と整備に努めます。
- ・交通インフラを維持・管理しながら、生活の安全性や利便性を高めていきます。

<主な施策>

- ・水道水の安定供給、下水処理、施設維持
- ・環境に配慮した住環境の整備
- ・公営住宅の適正な修繕
- ・快適な住環境の整備
- ・除排雪対策の整備強化
- ・音威子府バイパス開通に伴う関連施策の推進
- ・宗谷本線の活性化、拠点駅としての機能充実
- ・住宅改修・持家住宅奨励制度の利用促進
- ・広域交通（鉄道・道路）ネットワークの確立

■村民の意見

環境が良く住みやすい

鉄道が便利！

他都市町村とのアクセスがいい

村民の生活基盤がしっかりしているといい

施策の柱に関連するSDGsのゴール



基本目標 1 「森とひとが共生する」

(3) 村民の命と財産を守る安全な村

本村は豊かな自然に囲まれています。災害と隣り合わせの環境でもあります。村民の安心・安全な暮らしを守るため、災害対策や救急体制などの充実を図ります。

また、普段から村民同士が気をかけ合うことで、災害や犯罪が起きたときも、村民と行政、各関係機関が連携をとることができます。そのためにも村民の安心・安全に対する意識の醸成を図ります。また、各関係機関との連携を強化し、地域安全の確保を推進していきます。

1) 地域安全の確保

- 地域における防災に対する意識の向上と防災及び救急体制の充実を図ります。
- 地域の安心・安全に関わる情報発信の基盤を充実し、環境の改善や防犯意識の醸成につなげます。
- 安心・安全な村づくりを進めるために、防犯意識の高い地域づくりを目指し、地域に根ざした防犯活動を支援します。

<主な施策>

- 交通安全意識の普及啓発、関係機関と連携した安全確保の推進
- 防犯活動の推進
- 洪水・地震・豪雪・山地災害等に備えた防災体制の整備及び防災意識の普及啓発
- 住環境を損なう障害物等の撤去促進
- 救急体制の充実
- 消防団員の定数確保、消防車両の更新

■村民の意見

村民同士のつながりを感じる

避難経路の共有や情報発信を充実するとい

施策の柱に関連するSDGsのゴール



基本目標2 「森に学びひとが未来を創る」

(1) 村民の活力があふれる村

農林業や商工業を将来にわたって継承・発展させていくために、農林業及び商工業の振興を図ります。また、特色ある地場産品の開発やブランド化などにより、産業の活性化を進めます。

さらに、森林、河川、雪といった自然環境を活かしたツアーの造成やガイドの育成など、着地型体験観光を促進し、交流人口の増加に努めます。

1) 農林業・商工業の振興

- 農林業など第一次産業の振興のために、基盤整備に加え、新しい担い手の確保及び農畜産物や資材製品などの活用促進を図ります。
- 商工業についても活性化に向けて、後継者の確保や創業支援などの充実を図ります。

<主な施策>

- 森林資源・天然林等の多面的活用
- 新規作物導入の促進
- 有害鳥獣対策の強化推進
- 土づくり及び土地基盤整備の推進
- 農林業・商工業の後継者確保、起業・継承・創業支援・新規就農受け入れ態勢の整備と推進

■村民の意見

後継者の育成が大切である

景色の良さと農業を大切にしたい

商店が増えると生活がより充実する

2) 地場産品の振興

- 村内の農畜産物を村内外で広く親しんでもらえるように、特産品開発支援などブランド化の推進に努めます。
- また、木工品など商品のマーケティング戦略を進め、多くの人に商品の価値を訴求するためのPR、流通、販売の仕組みの充実を図ります。

<主な施策>

- 第一次産業のブランド化、6次産業化支援
- 工芸品や農産品の商品化・販売促進
- 農商工連携による雇用の場創出

■村民の意見

特産品の数を増やせるといい

芸術に関連した特産品がたくさんあるといい

3) 観光レクリエーションの振興

- 本村が誇る歴史的資源や文化資源など、あらゆる地域資源を活用して、着地型体験観光の展開を図ります。
- また、観光振興に関わる人材の育成や環境づくりを進めます。

<主な施策>

- 既存の観光施設（天塩川温泉、スキー場等々）の充実・整備等
- 着地型体験観光商品の造成
- 村民ガイドの育成
- 音威子府バイパスの開通に関連する地域振興の推進
- 村及び観光スポット等のPR

■村民の意見

村民全員がガイドとなるのが理想である

資源を活かしながら体験ツアーを行う

村の魅力を再発見し情報発信する

施策の柱に関連するSDGsのゴール



基本目標2 「森に学びひとが未来を創る」

(2) 自分らしい働き方と生き方を送れる村

本村に移住・定住してもらうには、雇用機会が満たされていることが大切です。また、各個人の生き方や働き方に合ったライフスタイルの実現を支援することが必要です。

そのため、村内での就業機会や雇用創出、働く環境づくりの充実に努めます。また、大きく変わる価値観に合わせて、多種多様な生き方や一人二役が実現できるような環境整備を図ります。

1) 新しいライフスタイルの実現

- 新しいライフスタイルの実現に向けて、リモートワーク、ワーケーションなどの環境整備や支援体制の充実に努めます。

<主な施策>

- 新たな働き方の導入支援
- リモートワーク、ワーケーション、創作活動等の環境整備
- 産学官金の連携により副業・兼業等人材活用できる体制づくり
- ワーク・ライフ・バランスの環境づくり推進
- 多様なライフスタイルに合わせた移住交流の推進

■村民の意見

若い世代でチャレンジしたい人を支援することが大切！

空き家が増えてるので活用できるといい

リモートワークができる場をつくり人口を増やしたい

仕事以外で活動できる環境づくりや価値づくりが大切

2) 雇用機会の充実

- 本村の産業振興を支えるため、地元企業等への雇用促進を図ります。また、北海道おといねっぷ美術工芸高等学校卒業生や若い世代の雇用の場の創出など、雇用環境の充実に努めます。
- 本村の地域資源や自然環境などを活かして、企業誘致に努めます。

<主な施策>

- 地元企業等への就業者雇用の促進
- おと高卒業生や若者の雇用の場の創出
- 企業誘致の推進

■村民の意見

広い立地を活かしてIT企業など誘致したい

3) 移住・定住の促進

- 自分らしいライフスタイルを送ることができる環境整備とともに、村外からの移住・定住を促進するため、相談窓口の充実に努めます。
- また、移住・定住者を受け入れることができるよう体験移住の促進や、居住の確保に努めます。

<主な施策>

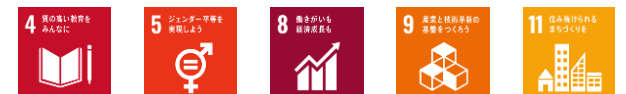
- 移住相談窓口の充実
- 移住・定住に向けた居住の場の確保
- 空き家や体験住宅等を活用した移住の促進
- 移住・就労体験と連携した居住等のリノベーション

■村民の意見

都会からの受け入れを増やしたい

クリエイターの移住促進をしたい

施策の柱に関連するSDGsのゴール



基本目標3 「森の大切さを知るひとが育つ」

(1) 村への愛着と生きる力を育む村

村民が本村の自然や歴史、多様な文化の素晴らしさを実感し、日常を楽しんでいることが村の望ましい在り方です。そして、小さくも魅力的な村を村民同士が力を合わせてつくりあげていくことも大切です。

そのためには、村内にあるさまざまな地域資源の価値を、村民一人ひとりが理解し・守り・活かすことが求められます。

また、本村の大きな特色である北海道おといねっふ美術工芸高等学校を活かした村づくりを推進していきます。

1) 教育の充実

- 子ども達が、個性と創造性、自主性を身につけられる教育の充実を図ります。また、デジタル技術等の導入を図り、地域的差異によらない学びの環境づくりに努めます。
- さらに、村民が学ぶ楽しさを実感できるように、村の地域資源を活かした環境づくりも推進します。
- 北海道おといねっふ美術工芸高等学校は本村の特徴でもあるため、教育環境の充実に努めます。

<主な施策>

- 新たな技術を取り入れた教育の推進
- 村の資源を活かした教育を推進
- 生涯学習に関わる機会や施設環境の整備
- 村民同士が学び合うふるさと教育の推進
- 北海道おといねっふ美術工芸高校の振興
- 村の振興の要となる高等学校の機能強化

■村民の意見

村ならではの教育を提供する

学校以外のコミュニティがあるといい

ICTを活用した教育を推進する

将来戻って来たいと思える村でありたい

2) 村立高校を通じた地域振興

- 本村の宝である北海道おといねっふ美術工芸高等学校の生徒（以降、おと高生）が地域で活躍できる仕組みづくりを進めます。また、若い世代が長く村づくりに参画できるような場や機会の創出を図ります。
- おと高生の作品などを発表できる機会など、おと高生と村民が交流できる場の創出に努めます。

<主な施策>

- 多様な人材活躍の推進
- 卒業生をはじめとした関係人口の創出
- 高校生参加による个性的で魅力ある村づくり
- 在学生の作品展示等村民との交流促進

■村民の意見

高校生が活躍する役割があるといい

高校生と交流できる場が欲しい

3) 交流活動の促進

- さまざまな歴史文化を学び、広い視野を持つ人材が社会で活躍することができるように、交流の環境づくりに努めます。

<主な施策>

- 村民同士による多世代交流の促進の場づくり
- 関係人口創出を通じた地域内外の交流促進

■村民の意見

子どもから大人までだれもが集える場をつくる

村内外から参加できるイベントの開催

4) スポーツ・文化振興

- 村民が健康で楽しく暮らし続けられるように、スポーツを楽しめる環境づくりに努めます。
- 村内に残る伝統行事、芸術文化を次世代に引き継いでいくために、保存・伝承に努めます。
- また、村民の芸術文化活動を発表できる場や、芸術文化に参加できる場の創出を支援します。

<主な施策>

- スポーツを楽しめる環境・機会の整備、交流促進
- 歴史・芸術文化等地域資源の継承と活用

■村民の意見

スノーモービルやスキーを楽しめる！

砂澤ビッキの作品が見られるおさしまミュージアムを大事にしたい

施策の柱に関連するSDGsのゴール



基本目標3 「森の大切さを知るひとが育つ」

(2) 互いに思いやり安心で生き活きと暮らせる村

だれもが安心して充実した生活を送ることができる村にしていくために、さまざまな境遇を持つ他者への理解を深め、支え合う社会づくりが必要です。

一人ひとりが健康に暮らし続けられるための取り組みの充実を図ります。

また、安心して子育てができる環境づくりと、児童の健全育成を進めるための支援体制を図ります。

そして、すべての村民が地域社会の一員として、生きがいをもって暮らしを営むための仕組みづくりに努めます。

1) 保健・医療サービスの整備

- 普段から心身の健康を気にかける、健康づくりに励む村民を増やすために、健康維持・増進の促進や保健・医療環境の充実を図ります。
- 病気を未然に防ぐために、ライフステージに応じた検診や予防接種などを推進します。

<主な施策>

- 心身の健康維持・相談支援、食育等の推進
- 各種検診（特定検診・がん検診等）事業の充実
- 村民健康相談事業の拡充
- 音威子府村立診療所の充実
- サテライトでの複数の診療科目診察の継続、医療機器の更新
- 感染症まん延防止対策の継続的対応

■村民の意見

歳を重ねても生涯現役でいられるといい

2) 子育て環境の充実

- 子どもを産み育てることをためらうことがないよう、妊娠、出産、子育てに至る一連の流れを支援する体制や助成制度の充実を進めます。
- 村内外との連携も図りながら、地域みんなで子どもを育てる環境づくりを推進します。

■村民の意見

子どもが健やかに育つ環境づくりをしてほしい

子育てしやすいよう医療費や教育費を補助できるといい

<主な施策>

- 切れ目のない子育て支援の推進
- 地域による子育て家庭の支援
- 保育サービス・幼児教育の充実

3) 福祉の推進

- 年齢や性別、障がいの有無に関わらず、すべての村民が安心して生活することができる高齢者福祉、障がい者福祉を推進します。
- 各関係機関との連携やさまざまな助成制度の充実を図ります。

<主な施策>

- 高齢の方・障がいのある方が活躍できる場づくり・機会づくり
- 保健福祉センターを中心とした地域包括ケアシステムの強化
- 地域複合施設「ときわ」をはじめとする村独自サービスの拡充と資源開発
- 社会福祉協議会と福祉事業の連携強化

■村民の意見

高齢者など含め時間にゆとりがある方も活躍できる場があるといい

4) 地域福祉の推進

- だれもが地域で安心して暮らせるように、村民・関係機関・行政の連携による「支え合う関係性」の構築に努めます。
- 地域の福祉交流拠点における支援体制を充実させ、地域コミュニティを基盤とした福祉ネットワーク活動を支援します。
- 地域福祉を担う団体の活動を支援し、村民自らの力で福祉活動を進め、支え合う地域づくりに努めます。

<主な施策>

- 地域コミュニティ活動やボランティア活動の推進
- 世代、分野を超えた「地域共生社会」の実現
- 福祉交流拠点として地域複合施設「ときわ」の積極的な活用
- 総合相談支援体制の充実

■村民の意見

手厚く助けてくれる村民のあたたかさがずっと残るといい

施策の柱に関連するSDGsのゴール



基本目標3 「森の大切さを知るひとが育つ」

(3) とともに支え合い関わり合う村

本村の地域振興を進めていくためには、村民一人ひとりの力が不可欠です。村民と事業者及び行政が協働し、今後の村づくりを進めていきます。

そのためには、協働の仕組みづくりの推進、村民に寄り添った行政運営や施設管理のほか、多様な社会参画の機会づくりなどを図ります。

1) 村民協働の仕組みづくり

- 村民と行政が連携し支え合いながら村づくりを担っていく仕組みや環境づくりを推進します。

<主な施策>

- 村政情報公開の推進
- 村民協働の推進
- 人づくり・協働活動に関する支援の充実
- 村民一人二役の活躍の場づくり
- 地域の枠を超えた支え合う仕組みづくり

■村民の意見

村民みんなが得意なことを活かして先生になる

一人ひとりが生き活きと活躍する

2) 効率的な行政運営

- 村民に寄り添った行政運営を図るため、組織体制の充実や適切な事務執行など効率的・効果的に各事業を推進します。

<主な施策>

- 組織体制の充実・強化
- 適切な事務執行
- 広域行政の促進（定住自立圏・公共交通等）

3) 行政サービスの充実

- インターネットなどの情報通信技術を有効に活用して、村民のニーズにあった情報提供や生活支援などの行政サービスの充実に努めます。

<主な施策>

- ホームページ、広報誌の内容の充実
- SNS等を活用した村づくり情報の広報
- 新たな技術を活用した行政サービスや生活支援検討

■村民の意見

ICTを活用して便利な行政サービスを提供してほしい

SNSで村の情報を積極的に発信する！

4) 健全な財政運営

- 国が法律で定めた自治体の財政健全度を示す指標、財政健全化判断基準を満たすよう、行財政の健全化を進めます。
- また、財政状況についての情報をより積極的に村民に伝え、本村の財政状況の周知に努めます。

<主な施策>

- 財政運営の健全化
- 事業の集約、再編等による効率的な施策の展開

施策の柱に関連するSDGsのゴール



基本目標3 「森の大切さを知るひとが育つ」

5) 公共施設等の総合管理

- 老朽化した公共施設の適切な維持を図り、村民の学びの場、交流の拠点として活用できるよう総合的な管理に努めます。

<主な施策>

- 公共施設等の維持管理

■村民の意見

観光客向けに環境を整備してほしい

公共施設を利活用し高校生の作品展や発表の場にする

6) 男女共同参画社会の推進

- 多くの村民が「男女共同参画」の大切さを理解し、一人ひとりの個性と能力が発揮できる村づくりを進めます。
- また、子育てや働く環境、性別などに関わらず、だれもが社会で活躍することができるように制度の充実や環境づくりの推進、意識啓発などを図ります。

<主な施策>

- 男女共同参画意識の啓発
- 男女共同参画・女性活躍の社会環境づくり
- 審議会・委員会等への女性の登用

■村民の意見

働きながら子育てしやすく、生活が充実する環境が整うといい

施策の柱に関連するSDGsのゴール

